

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2022年
10月21日
第139号



リンドウ (リンドウ科)

第三圃場で、秋の代表的な花が見られます。九州から本州に分布しますが、近年はなかなかお目にかかれませんか！かつて、日本に自生するリンドウは、中国からシベリア、朝鮮半島などに自生する多年性草本のトウリンドウの変種とされてきましたが、現在では同じ種として統合されています。中国語での植物名が竜胆で、日本でも文学作品などではその漢字でリンドウと読ませることがあります。根が生薬の竜胆（リュウタン）となり、民間では苦味健胃薬として胃液分泌促進、腸管運動促進を目的に食欲不振、胃もたれなどに、漢方では清熱燥湿、瀉肝降火を目的に竜胆瀉肝湯、疎経活血湯などに配剤されています。竜胆という名の由来は、熊胆（ユウタン、ヒグマの胆のうを基原とする）より苦く、熊よりも強い生き物ということで竜が上げられたことから。

タイワンモクゲンジ (ムクロジ科)

薬用植物園の正門すぐ上に、黄色い花が咲き、周辺に花弁を落としている木本があります。名前の通り、台湾原産で、台湾島の特有種です。従って、中医学でも漢方医学でも使用されることはなく、台湾島先住民族での民間薬として、果実が鎮静目的に利用されている他、日本でも台湾でも、街路樹として利用されています。同属の植物で、中国および朝鮮半島を原産とするモクゲンジは、中医学では花が欒華（ランカ）という生薬となり、瀉火解鬱という薬能が当てられ、目の充血や腫痛に使用されることになっています。またモクゲンジの種子は数珠の材料として利用されるので、寺院の継代に植栽されること多いです。